



おおもとますゆき
大本益之議員

どう進めるのか 市民病院改革

議員 市民病院の医療と介護の連携拠点機能についての考えは。

市長 病院内に地域包括ケア室を設置することを含め、庁内体制を整えていく。他職種連携会議の開催や病院から在宅、在宅から病院の連携を図り、疾病予防、医療から介護、福祉総合相談をワンストップで受け付け、住民が切れ目ないサービスを受けられる仕組みづくりを推進したい。

議員 老朽化への対応はどうか。

市長 今年度策定予定の基本構想、その後の基本計画を検討する中で、建て替えの場所や規模、診療科目、時期等について考えていく。

議員 計画策定にともない、また



先延ばしになるのではないかと。

副市長 市民病院新改革プランを本年度策定するのに合わせて基本構想を進め、29年度に基本計画をつくるというスケジュールで進めていきたい。

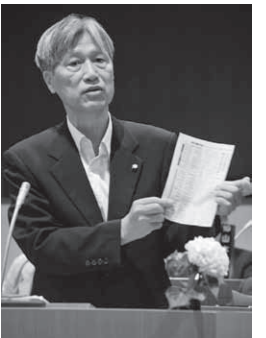
どう進めるのか 産業振興

議員 笠岡市産業振興ビジョンの方向性に変更はあるのか。

市長 ビジョンでは、企業誘致、地元中小企業振興・起業支援、観光振興を3本柱としており、これらを具体的かつ着実に推進する。

議員 産業連関表の活用予定は。

市長 作成した連関表に基づき地域経済構造分析を行い、長期的な産業振興施策を立案する。平成29年3月までに最終報告書を作成する。



うまこしゆうせい
馬越裕正議員

ふるさと納税の これからは

議員 小林市長の「ふるさと納税制度」に対する基本的な考えと今後の展開についてたずねる。

市長 「ふるさと納税制度」については、笠岡市内の特産品を返礼品として送っており、地場産業の振興に貢献していると考えます。また、寄附金は、笠岡市にとって貴重な財源であると考えます。今後は、新たな返礼品の掘り起こしなどによるその充実と、送る時期や方法の検討、パンフレットの一新など、PR方法の見直しを図っていきたい。2億円、3億円のふるさと納税になっても、おかしくないと考えています。



民間企業との人材交流 の可能性は

議員 市長は、民間の発想・考え方を行政に注入すると言われている。笠岡市と民間企業との人材交流を図るつもりがあるのかたずねる。

市長 最近の企業は、ガバナンスなどの問題があつて、難しくなつてきているが、チャンスがあれば、模索検討していきたい。人材交流という意味では、東京周辺の先進的なまちづくりをしている自治体との、いろいろな方法による交流を、どんどん進めていきたいと考えている。

